

や否をしらず、

〔北越雪譜二編四〕浮島

小千谷より西一里に芳谷村といふあり、こゝに郡殿の池とて、四方二三町計の池ありて、浮島十三あり、晴天風なき時、日出れば十三の小島おののく離散して池中に遊ぶが如し、日入れば池の正中にあつまりて一つの島となる、此池に種々の奇異あれども、文多ければしるさず、羽州の浮島はものにも記して、人の知る處なれど、此うきしまはしる人まれなり。

〔枕草子九〕しまは

うきしま やそしま たはれ島 みづしま 松がうらしま まがきの島 とよらの島 た
どしま

〔奥義抄上ノ末〕出萬葉集所名 普通名所不注○
略○中

島

からぬ、しま たけしま さ、しま いづしま ひめしま も、つしま ながとのしま
いらこがしま 長門國也 おきつかりしま きびのこじま かちしま かさぬひのしま いかひしま
やそのしまも、つちの ゆきしま あへのしま か、けたくしま あはしま のじま

〔八雲御抄五〕島

たちばなのこじま山 有河内字治也、山ぶまきの基光歌金葉みつのこ陸 古
きの同後撰 おほがまのうらのおきに有、まつがうら素性後撰 うきおほがま也おくのの浦にそむき
見にあへの同すも石 うたみの、古に貫之、なには也、いらこか伊勢 まつ重之後拾
ふるばらごし、いゑ同からにの万 いとこ紀万 あたまつ神座 万いもかたみの万うかはなれ
こ同在肥前國、島かしま同 うらのはつ同津國後撰、元方、云あはぢ淡
奥万

名島